

【第131回生涯教育講座】

増加する高齢者てんかん：診療上の問題点

なが	い	あつし	あ	べ	さと	し	いな	がき	さと	し
長	井	篤	安	部	哲	史	稲	垣	諭	史
か	とう	よし	あり	たけ	しゅん		た	はら	な	お
加	藤	芳	有	竹	洵		田	原	奈	生
いわ	さ	けん	かな	い	ゆき	え	た	はら	だい	すけ
岩	佐	憲	金	井	由	貴	田	原	大	資
あさ	やま	こう	あお	き	よし	ひと	み	たき	しん	ご
朝	山	康	青	木	慶	仁	三	瀧	真	悟

キーワード：高齢者，症候性てんかん，側頭葉てんかん，意識消失焦点発作，非痙攣性てんかん重積状態 (nonconvulsive status epilepticus : NCSE)

要 旨

てんかんの有病率は日本で100万人以上とされ、脳神経内科外来のみならず一般臨床でも多く診ることのある疾患である。60歳を超えると年齢とともに発症率が増加するため、高齢化の進む現代社会では実際に遭遇した場合の診断・治療の重要性が増すと思われる。そして、高齢者てんかんの特徴として、症候性てんかんが大部分と推定され、一過性の意識混濁や自動症などが前景となり、必ずしもけいれん発作を伴わないことも多いため気付かれないことが多く、認知症と間違えられることもあるので注意を要する。潜在的な脳血管障害や認知症などが原因となっていることも多い。一部では非けいれん性てんかん重積状態という重篤な病態を引き起こしたり、難治性となるため、診断を誤ることなく早期から適切な治療を行うことが必要である。高齢者のてんかん治療においては、栄養低下や肝腎機能低下を背景とした副作用や薬剤相互作用が出やすいことを念頭に置いて診療にあたるべきである。

はじめに

てんかんの有病率について全国規模の調査はないが、日本人における有病率は、1000人に8人程

度と見積もられ、100万人程度と推測される程高い。てんかんを有する人の運転免許制度が改正され、厳密に運用されるようになってきているが、高齢者は年齢とともにてんかんの有病率が増加するため、認知症やフレイルの合併も相まって、大きな問題を含有したままである。

てんかんは、慢性、反復性に起こる大脳ニュー

Atsushi NAGAI et al.

島根大学医学部内科学講座内科学第三

連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部内科学講座内科学第三